



副代表幹事  
中国委員会 委員長  
**伊東 信一郎**  
ANA ホールディングス  
取締役社長

### Contents

■特集 1	
2013年度（第28回） 経済同友会 夏季セミナー〈後編〉 <b>成長と復興への革新的挑戦</b>	02
■特集 2	
<b>30年後の日本を考える</b> <b>『ミトコンドリアとカレーうどん』</b>	15
■Close-up提言	
インド委員会 報告書 馬田一 委員長 <b>インドとの関係構築は 真のグローバル化への第一歩である</b>	19
■Column	
<b>巻頭言</b> 伊東 信一郎 「グローバルビジネスの戦略拠点」	01
<b>リレートーク</b> 鈴木 義幸 「夏休み、テネシーで学んだこと」	14
<b>コペンハーゲン通信</b> 「コペンハーゲンの自転車事情」	21
<b>私の思い出写真館</b> 伊藤 守 「脱サラ・脱都会が起業の原点」	22

## 「グローバルビジネスの戦略拠点」

安倍首相は、毎月のように海外を訪問し、積極的な外交を展開されている。待望であった政権の長期的安定が見込まれ、経済政策も順調な成果を挙げている首相が、諸外国で日本の立場を直接主張・説明し、また、相手国との互惠関係を構築することは意義深いものがある。その外交の場でのスピーチには常に高い関心が集まる。6月のロンドン訪問時の講演で首相は、「世界から資本と、叢智が集まる場を、日本にこしらえるつもりです。ロンドンやニューヨークに匹敵する、国際的なビジネス環境をつくる。世界中から、技術、人材、資金を集める都市をつくりたい。……世界から、ヒト、モノ、カネを呼び込んで、それを成長の糧としてまた大きくなる。そんな日本をつくる」と話された。私はこのことに注目している。

アベノミクスの三本目の矢である成長戦略の中でも、投資を呼び込むことを念頭に、まずは、国家戦略特区を使って世界で一番ビジネスがしやすい環境をつくり上げるとしている。いわゆる6重苦の中で、多くの企業がモノづくりの拠点や成長分野を海外に求め、その傾向は円安となった現在でも容易には止まらない。ビジネス環境の整備は、外資を呼び込むためだけでなく、日本企業にとってのグローバルビジネスの戦略的拠点づくりのためにも必要であると申し上げたい。海外で先行する都市をベンチマークとし、ヒト、モノ、カネが集まる仕組みを徹底的に検討し、首相のリーダーシップの下、思い切った政策の推進をお願いしたい。

さらに大切なことは、外国人にとって「行ってみたい」「学んでみたい」「働いてみたい」「住んでみたい」と思ってもらえる魅力ある国づくりを目指すことである。日本は、安全で、日常の利便性の高さや機能性で優れ、一方で歴史や固有の文化にも触れることができる奥深さも持ち合わせている。交通網も発達し、電車の運行時刻は極めて正確で、食の面でも和食に限らず世界の料理を比較的リーズナブルに味わうことができる。さらに日本のおもてなしの心や細やかな気遣いは世界一で、外国人にとっても居心地の良い国のはずである。一方で、首都圏における通勤ラッシュや、英語をはじめとする外国語対応力の低さ等、改善すべきところも少なくない。訪れる人の目線で、分かりやすく、使いやすく、居心地の良い仕組みづくりを進めてもらいたい。

わが国の立地競争力の向上では、環境整備のための国家戦略に大いに期待するが、同時に国づくりの面も鑑みれば、私たち自身の日常生活のあり方もこれにふさわしいものにしていかなければ、本当の意味でグローバルビジネスの戦略的拠点になることはできない。結局のところ、魅力ある国づくりとは、政府と私たち国民レベルの決意が問題なのである。

今月の表紙：世界の文様シリーズ

### 【ベトナム／ザオ族の伝統織物柄】

中国から移住してきたといわれる山間の少数民族ザオ族のデザイン。幾何学模様の中にも東洋的雰囲気を出しています。民族衣装には自然をモチーフにした細かい刺繍を施します。